

<p>教育事業名</p>	<p>平成 29 年度 国立室戸青少年自然の家教育事業</p> <p style="text-align: center;"><b>体験！発見！ジオパーク（秋編）</b></p>		
<p>事業の趣旨</p>	<p>室戸世界ジオパークの地質や地形、自然を生かした室戸の人々の営みを知ること、ジオパークの自然に興味関心を高めるとともに、自然の偉大さと人間に与える恵みの大きさを体感することをねらいとする。</p>		
<p>対象者</p>	<p>小学生（4・5・6年）</p>		
<p>実施期間</p>	<p>平成 29 年 11 月 3 日（金）～平成 29 年 11 月 5 日（月）2泊3日</p>		
<p>参加者 （人数／定員）</p>	<p>34名／35名</p>		
<p>活動プログラム</p>	<p style="text-align: center;">11月3日（金）</p> <p>9：30 はりまや橋観光バスターミナル発 （安芸駅で休憩）</p> <p>10：40</p> <p>11：50 海の駅「とろむ」着</p> <p>12：00 受付、昼食</p> <p>12：30 開講式</p> <p>13：00 クルージング</p> <p>14：35 ジオパークセンター見学</p> <p>15：35 ジオパークセンター発</p> <p>16：05 自然の家着 オリエンテーション</p> <p>17：00 タベのつどい</p> <p>17：15 夕食</p> <p>18：30 班タイム</p> <p>20：00 入浴</p> <p>20：45 班会</p> <p>22：00 就寝</p>	<p style="text-align: center;">11月4日（土）</p> <p>6：30 起床、洗面</p> <p>7：30 朝のつどい</p> <p>7：45 朝食</p> <p>8：45 自然の家発</p> <p>9：15 とろむ着、釣り活動</p> <p>11：30 とろむ発</p> <p>12：00 自然の家着、昼食</p> <p>13：00 室戸の海と漁業について【講義】</p> <p>14：30 干物・フルーツ寒天づくり</p> <p>17：15 夕食</p> <p>18：30 学習のまとめ①</p> <p>20：45 入浴</p> <p>22：00 就寝</p>	<p style="text-align: center;">11月5日（日）</p> <p>6：30 起床、洗面、清掃 退所点検</p> <p>7：30 朝のつどい</p> <p>7：45 朝食</p> <p>9：00 野外炊事 フルーツ寒天試食</p> <p>12：00 学習のまとめ②</p> <p>12：30 成果発表</p> <p>13：00 閉講式</p> <p>13：30 自然の家発 （安芸駅で休憩）</p> <p>14：40 阿波海南駅着</p> <p>16：00 はりまや橋観光バスターミナル着</p>
<p>活動の様子</p>	<p>11月3日金曜日（1日目）</p> <p>4年生14人、5年生12人、6年生8人の参加者で教育事業「体験！発見！ジオパーク」はスタートした。最初の活動はジオパーク推進協議会専門員の仙頭杏美氏による室戸岬ミニクルージングだった。室戸岬までの往復1時間のクルージングで、室戸ならではの地形である海成段丘や室戸岬灯台、明日の活動のヒントとなる野根海底谷についての説明を聞いた。波が高く船酔いをする参加者もいたが、海から見る室戸岬の雄大さに感動していたようだ。クルージングの後は室戸世界ジオパークセンターを見学し、南海トラフ巨大地震発生の仕組みや台風にも備えた家の作り等のジオパークの楽しみ方について学んだ。</p> <p>夜は、班タイムとして法人ボランティアによる仲間づくりゲームで楽しんだ。班員同士の自己紹介や全体での仲間集めゲーム、じゃんけんゲーム等をして仲間の絆を深めていった。</p> <p>11月4日土曜日（2日目）</p> <p>2日目の朝の活動は室戸岬新港とろむでの釣り活動だった。釣り方やえさの付け方、触ると危険な魚等の説明の後、それぞれが作った仕掛けを使って釣りを楽しんだ。天気に恵まれたくさんの魚が釣れた。オヤビッチャやトウゴロウイワシ、イスズミ、スズメダイ、アイゴ等の魚が釣れた。「この魚で午後の干物をつくろう。」と話している参加者もいた。</p>		



午後は地域の漁師さんである安岡幸男氏から「室戸の海と漁業について」話をしてもらった。室戸の海が有数の漁場であることとその理由や漁法について、漁師という職業の魅力についての内容だった。参加者から何度も質問があり、予定の時間をオーバーした。講義の後は野外炊事場で干物とフルーツ寒天づくりをした。魚がうまきさばけた参加者は笑顔いっぱいだった。また、室戸でとれたテングサを使ってのフルーツ寒天が完成すると、友達とどのような味がするのか話をしてきた者もいた。



夜の活動は2日間の活動のまとめをした。明日の活動も加えて成果発表をするため、読む相手を意識しながらまとめていった。終わった班からフルーツ寒天を食べると「おいしい。」「食感がいい。」という感想もあった。

11月5日 日曜日（3日目）

最終日は2日目に作った干物と豚汁がメニューの野外炊事をした。かまど係やごはん係、豚汁係、干物係に分かれて調理した。干物がおいしいという声がたくさん聞こえてきた。何よりもけがなく活動できたことが良かった。最後にまとめとして成果を発表し、室戸ジオパーク推進協議会仙頭杏美専門員より講評をした抱き、3日間の活動は終了した。法人ボランティアや班の友だちと助け合いながら楽しく過ごした3日間だった。疲れた中でも満足感が感じられる参加者の表情が印象に残った。ジオパークの魅力と偉大さを体感した事業だった。



**事業の成果**

- ・ジオパーク推進協議会や地元漁師の協力によりジオパークの地形や自然を生かした人々の営みを学ぶことができた。
- ・釣り活動やクルージング等の体験活動を通して海や魚に興味を持ち、地形を生かした漁法について話を聞くことで、室戸ジオパークについて関心を深めることができた。
- ・班活動を通して、協力することや友達を大切にする姿勢が見られた。

**事業の課題**

- ・活動内容が多く、参加者には時間の余裕がなかった。プログラムを精選し、ゆとりのある活動が提供できるように再考したい。
- ・仲間にとけこむために時間が必要な参加者や仲間と参加した者も多いため、話をする仲間が偏りがちな者もいた。
- ・地域にはまだまだ教材が埋もれている。さらに多くのプログラムが提供できるよう地域の関係機関と連携をさらに深めていきたい。

**参加者の感想**

- ・魚が釣れた時は本当にうれしかった。釣れなかったときは悔しかった。
- ・安岡さんの話を聞いて、黒潮には魚がいっぱいいると思っていたけど、いないことがわかった。魚は黒潮の周りでできる渦にたくさんいることがわかってよかった。
- ・釣った魚が死んでいるのを見て、食べないのに釣った魚をそのままバケツに入れておくのはかわいそうだと思った。もっと命を大切にしないといけない。
- ・干物の作り方がわかった。最初は包丁が怖かったけれどうまかった。また作ってみたいと思った。